

# 森林やまがた

No. 63

2002 6月



第53回全国植樹祭記念「森林フォーラム」：山形市・山形国際交流プラザ



## 第53回全国植樹祭

感じていますか 森があるしあわせ

## 目 次

森林フォーラム…………… 1	現地ルポ
みんなで支える森林づくり… 2	いま、小国白い森が熱い!… 7
山形県林業・木材産業構造	マツクイムシに強いマツを探せ!… 8
改革プログラムについて… 3	『森のくに やまがた』発刊される… 9
特用林産物の生産状況と課題… 4	「森の旅人・山形」のご案内… 9
平成13年度資源循環型森林施業	山形県の古木・名木……………10
団地化モデル事業の成果と課題… 5	公共木造施設……………10
森の中は不思議がいっぱい… 6	丸太・製材品価格の推移……12

# みんなで支える森林づくり

第五十三回全国植樹祭記念「森林フォーラム」開催

昨年七月、二十一世紀に向けて新たに施行された「森林・林業基本法」を検証しながら、第五十三回全国植樹祭を契機に展開している「県民総参加の森林づくり」運動への理解を高め、

新しい森林づくりのあり方を考えることを目的に、五月十八日森林フォーラム「みんなで支える森林づくり」を開催しました。森づくりに関心を持つ県民、林業関係者ら約四百名が参加し、会場となった山形国際交流プラザ「ビッグウイング」大会議室は立ち見もでる盛況でした。

高橋和雄山形県知事の主催者挨拶、岸宏一参議院議員の祝辞のあと、静岡大学農学部助教授佐藤洋一郎氏より「森林と多様性」と題した基調講演がありました。

植物遺伝学が専門である佐藤氏からは、「森を守ることが文明を守ること」であるとの切り口で、森が人を作り、里山の森の中



で人間は五感を発達させていったことや、日本の稲の起源など太古からの日本人と森林との大きなかわりについて講演いただきました。

パネルディスカッションでは、山形大学名誉教授北村昌美氏、鶴岡市の建築士秋野公子氏、最上広域森林組合代表理事組合長の佐藤景一郎氏、MORIMORI ネットワーク副代表で林政審議会の委員でもあるタレントの芳村真理氏、そして林野庁長官の加藤鐵夫氏が登壇し、農政ジャーナリストの加倉井弘氏がコーディネーターを務めました。

地域の材を地元を活かそうとする金山町の試みをはじめ、具体的事例が会場のスクリーンに映され、「森林が持つ多面的機能」、「みんなが参加する森づくり」、「地球温暖化防止と森林の関係」、「山村の活性化と循環型



芳村真理氏

〔具森林課〕

構造改革の目標及び指標（抜粋）

(1) 林業分野

区分	内容		現状(H13)	目標(H18)
林業経営体	100ha以上の自営林家数		31	32
林業事業体	保有224ha以上又は素材生産5千m <sup>3</sup> 以上の事業体数		12	18
林業労働力	認定事業体数		32	45
	新規就労者数(人/年)		15	30
	災害発生件数(件/5年)【20%減少】		199	159
基盤整備等	高性能林業機械(台)		23	32
	森林GISの導入(普及率)【100%達成】		0	100
特用林産物	なめこ	生産量(t)【26%増加】	3,089	3,900
		生産コスト(円)【5%減少】	365	347
	またけ	生産量(t)【19%増加】	588	700
		生産コスト(円)【5%減少】	557	529
	ぶなしめじ	生産量(t)【24%増加】	1,047	1,300
		生産コスト(円)【5%減少】	289	275
	山菜生産量(t)【94%増加】		1,082	2,100
	木炭生産量(t)【31%増加】		916	1,200
直販施設での販売(千円)【30%増加】		44,100	57,330	
山菜等加工量(t)【30%増加】		36	47	
森林空間活用	施設数(箇所)		42	47
	利用者数(千人)【9%増加】		528	575

(2) 木材産業分野

区分	内容		現状(H13)	目標(H18)
素材生産	生産性(m <sup>3</sup> /人・日)	一般林業用機械の組合せ【10%増加】	3.50	3.85
		高性能林業機械の組合せ	—	5.00
製材業	生産性(m <sup>3</sup> /人・年)【13%増加】		354	400
	乾燥材生産割合(%)【150%増加】		8	20
高次加工	工場数(10年後)		1	4
原木流通	原木市場の平均取扱量(m <sup>3</sup> /月)【20%増加】		1,954	2,350
	加工施設への直送割合(%)		89	90
木材利用	在来工法住宅の県産材利用量(千m <sup>3</sup> /年)【20%増加】		70	84
	木造公共施設での単位当たりの地域材利用量(m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )		0.23	0.28
木材加工団地	団地数(10年後)		4	6
バイオマス	活用施設数(10年後)		0	4

\*取り組み規模により10年計画のものもある。

山形県林業・木材産業構造改革プログラムについて

森林・林業基本法に基づく「森林・林業基本計画」が策定され、林産物の供給及び利用に関する目標が示されたが、これを実現していくためには、林業の担い手が確保され、機械化等による生産性の向上、木材利用の拡大、木材の加工・流通における低コスト化、製品の品質向上、ロットの拡大等が重要な課題とされている。

これを踏まえ、本県でも林業・木材産業の個別目標や指標を設定し、着実な実行による構造改革を図るため、今後五年間の具体的なプログラムを作成したものである。特徴は次のとおりである。

一、対象期間  
平成十四年から十八年



H13に林業事業で5億円を投入しコスト20%削減を達成した鮎川のなめこ生産施設。今後の事業はすべて構造改革の成果が問われることになる。写真は40万ピンを1カ月保管する一次培養室

- 二、作成単位  
県を単位として作成
- 三、主要事業との関連  
平成十四年度から開始される、林業・木材産業構造改革事業をはじめとした国の主要事業にあつては、真に必要な施設整備への重点化を図る観点から、整備施設の生産目標等がプログラムに定める目標数値の水準以上を計画する必要がある。
- 四、その他  
今後五カ年間に達成すべき目標等は表のとおりである。施設設備は数十箇所を予定している。

〔県森林課〕

# 特用林産物の生産状況と課題

「特用林産物」は、森林から生み出される「林産物」のうち、木材を除いたすべてのものの総称であり、この中には、「きのこ類」、「山菜類」、「樹実類」、のほか、うるしなどの樹脂類、おうれん、きはだなどの薬用植物、木炭、薪、竹、桐などたくさん種類があります。

しいたけ、ひらたけ、まいたけ、ぶなしめじのほか、近年生産が増加しているエリンギなどがあります。

「山菜類」の生産量は、千八百一十トンの生産額は十一億五千円となっております。全体の二十%を占めています。主な作物としては、わらび、ふき、たけのこ、うど、ごごみ、あけびなどがあり、最近では、たらのめ、うるいなどの人工栽培での生産量が増えています。

そのほか、「木炭類」の生産額は二億六千万円、「樹実類」と「竹桐類」の生産額は一億一千万円となっております。

本県における平成十三年次の特用林産物の生産量は約一万二千トンで、生産額は五十八億一千万円となっております。

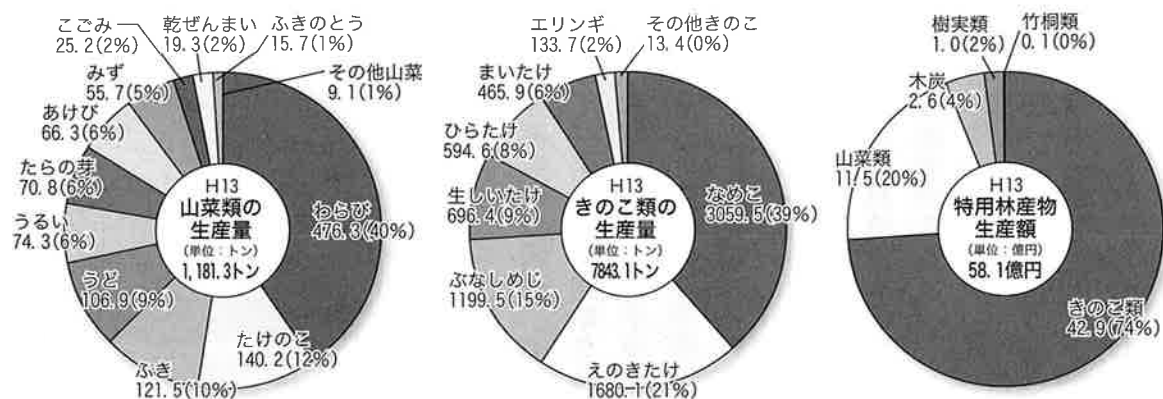
「きのこ類」の生産量は七千八百四十三トンで、生産額は四十二億九千万円となっております。特用林産物生産額全体の七十四%を占めています。主な作物としては、なめこ、えのきたけ、生

物・健康志向等は今後も増大していくものと予想され、このようなニーズに応えられる安全で質の高い特用林産物の供給を進めていくことが重要となっております。

また、特用林産物は、林業経営の安定や農山村地域の振興の面からも、重要な役割を果たしていることから、地域資源を活かした地場産業として展開を図っていく必要があります。

このため、県では、平成十四年度からの重点取り組み課題を、①豊かな自然環境を活用した露地栽培による生産の振興、②おいしい山形推進機構と連携した消費拡大の推進、③グリーンツーリズムと連携した森林体験ツーリズムの実施とし、今後も積極的に特用林産物の振興を図ってまいります。

〔県森林課〕



## 平成十三年度資源循環型森林施業 団地化モデル事業の成果と課題

資源循環型森林施業団地化モデル事業がスタートして一年が経過しました。

一年目の実績はどうだったのか、また、そこから導きだされる課題等の検討をしたいと思います。

### 一、モデル事業の実績

平成十三年度の同事業の実績は、県内四団地で、利用間伐面積八十ヘクタール、生産間伐材積三、九四一立方メートル、作業路網の整備一二、八五〇メートル、山土場の作設四十一箇所です。

### 二、成果について

これらの実績から得られた成果をまとめると次のとおり。

①間伐実施による森林整備の促進及びそれに伴う公益的機能の発揮が図られたこと。

適正に管理された森林が生み

出す洪水の防止や渇水の緩和、水質の浄化、土砂の流出崩壊の

防止、二酸化炭素の固定などの公益的機能は、一般の人々にも広く認識されてきております。

### ②間伐材生産による中間収益

が確保されたこと。

間伐材の利用については、直に製材業者に搬入されたもののほか、市売りに供されたもの、森林所有者が自家利用したものとさまざまでしたが、運材経費の補助により、利用の拡大を図ることができました。

### ③林内基盤整備が進んだこと。

間伐材搬出には路網の整備による搬出コストの低減が不可欠です。また、整備した路網は、

そのまま主伐の備えとなります。三、これからの課題

林内を毛細血管のように走る簡易な路網の整備は、統一規格がないこと、開設単価の安価等から補助の対象とされることが少なく、未整備の森林が多いの



が現状です。

本事業では低規格路網の整備が可能で、整備した路網は、林内の自由な集材を可能にし、将来の主伐期におおいに役立つはずですが、しかし、こうしたコスト軽減

の努力も、間伐材等木材の安定した需要先が確保されていないので、

初めて収益に繋がるものです。また、いかに補助事業があっても、事業主体自体の林産事業が基礎になればなりません。

これらのモデル事業が指標となり、地域の間伐実施及び間伐材生産が推進されることを望みます。

### 四、まとめ

平成十三年度森林・林業白書では「森林整備とそれらを通じて供給される木材の利用が極めて重要」とし、整備と間伐材利用を同時課題と位置付けています。また、「林業・木材産業の活性化により森林資源の循環の形成が図られない場合は、森林整備も十分に進まない」とし、業界が果たす役割は重要で、注目されています。森林整備に繋がる間伐材生産を積極的に実施しましょう。

〔県森林課〕





森の中は不思議がいっぱい

宮浦キッズクラブ  
山形市立宮浦小学校  
六年 白井士乃

私達の宮浦小は、田んぼにかこまれた緑豊かな学校です。私達の学校では、三年生から六年生までの六十人がキッズクラブに入っています。このクラブでは、みんなで自主的に企画し、楽しく実行できるようにがんばっています。キッズクラブでは夏に少年自然の家に行き、自分でテントを建てて、キャンプを行いました。

キャンプの目的は、「自然と仲良くなるう」だったので、友達といっしょに、めずらしい植物を探しに行きました。沼の近くを探したら、見たことのない植物がたくさんありました。名前を調べてみたら、トンボソウ、



ごはんをおかわり

ニガナ、センボンヤリ、などでした。私達は、どんどん奥に行くと、笹の葉が一面にはえている所に出ました。私は、これを使って何か作れないかなあと思い工夫してみました。なかなかできません。そこで、笹の若

芽をとって巻き方を変えていきながら吹いてみると、ピーと小さな高い音が出ました。早速みんなにこのことを紹介すると、たちまちみんなで笛作りになつてとっても楽しかったです。

私は、森って不思議だなあと思います。なぜなら、風が吹いた時、木の葉がゆれる音や鳥のさえずりなどを聞いていると、いやなこと忘れてしまいます。しかも、おいしい空気や、木々の緑などを見ていると疲れがふつとんで生きかえったような気分になります。

森のおいしい空気をすって、昆虫も、鳥も、魚も、私達までもが生き生きして元気に飛びまわります。なんだか、自然からエネルギーみたいなものをもらっているようで、楽しくなつてきます。

私は、キッズクラブの、自然

と仲よくなる活動を通して、「私でもできる自然を大切にすること」を考えました。

一つは、植物を育てることです。二つめは、生きものを大事にあつかうことです。三つめは川・湖・沼などに、ゴミを捨てないことです。私は、この三つを守って、自然を大切にしていきたいと思えます。みなさんも自然を大切にしてほしいです。



樹氷観察



小国町で動き出した地域材の利用を積極的に進める、二つの取り組みについてご紹介します。

**一、小国町木材製品利用住宅建築奨励助成金制度**

小国町では、町内における木材需要の促進と町内経済の活性化を図ることを目的に、平成十四年度から小国産木材等を使用する木造住宅を建築する方に対して、助成金を交付する制度を実施しています。

助成内容は、①小国産木材を使用し、②町内製材業者が納入した木材を使用した住宅、または、町内建設業者が施工する住宅で、かつ③申請者が居住用に

新築又は増改築する住宅、という三つの要件に該当すれば、使用木材経費の二〇%以内の額（木材経費が五〇万円を越えるもの）、三〇万円を限度として助成金を交付するものです。

**二、「白い森住宅工房」の設立**

町への助成制度の創設活動を機に設立されたのが、「白い森住宅工房」です。「白い森住宅工房」は、小国町の豊かな森林資源を有効に活用すれば、森林の持つ多様な機能を十分発揮させることができ、かつ森林の整備や育成にもつながるという理念のもとに、これまでの輸入材に依存してきた供給システムを見直し、小国産材による安全で快

適な木造住宅づくりの普及啓発と、小国産材による地域経済の活性化を図るため、小国町内の林業・木材及び住宅建築関係者により、昨年十二月に設立されました。

（構成員は下表のとおり）  
今後は、小国産材を使用した木造住宅の普及啓発を始めとして、山（林業関係者）と町（消費者＋建設関係者）との新たな関係を築くため、幅広い活動を展開していく予定です。

平成十四年度は、「見て・触れて・遊んで学ぶ住まいづくり」をテーマに、山の立木から木造住宅が出来るまでの過程を体験学習してもらおう、親子体験ツアーを計画しています。

**三、おわりに**

県も今年度から県産木材使用住宅に対する利子補給制度をス

タートさせており、さらなる県産木材の需要拡大を推進しているところではあります。

小国町でのこの取り組みが、置賜地域における、地域材利用への関心を高め、需要拡大への追い風になればと期待しています。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

**「白い森住宅工房」構成員名簿**

代表	小国町建築組合	川上 昭男
副代表	小国町森林組合	井上 一美
	中原企画設計	中原 久平 (事務局)
幹事	小国町建設業組合	小山 和夫
	小国町木造建築協同組合	佐藤 三郎
	小国町木材製材組合	山口 英秋
	小国町素材生産協同組合	横山 利幸
監事	小国町建築士会	保科 鉄

# 県森林研究研修センターからのお知らせ マツクイムシに強いマツを探せ!

## —マツザイセンチュウ病抵抗性育種の取り組み—

### ◆はじめに

ここ数年、県内のマツクイムシの被害は、夏の高温少雨の影響もあって拡大の傾向にあります。現在、その防除対策としては、伐倒駆除や地上散布などが主になっていますが、それ以外の対策として林木育種からの取り組みを紹介します。

### ◆抵抗性マツとは・・・

マツザイセンチュウ病抵抗性育種は、①被害地から健全木を選抜し、②その選抜木から接ぎ木クローンと実生苗を養成して、③苗木にザイセンチュウを接種する接種検定によって、抵抗性マツを選び出そうというものです。接種検定では、抵抗性マツ

個体の種から養成した苗木でも40%～50%が枯れますが、それ以上の抵抗性があれば合格となります。被害先発地である西南地方では昭和53年から実施されており、現在までにアカマツ92本、クロマツ16本が抵抗性マツとして確定され、採種園からの種子による抵抗性苗木生産が行われています。

これは、アカマツ一千本、クロマツ一五千本の候補木の中から選ばれたもので、非常に選抜が難しいことが分かります。こうして育成された抵抗性苗木は、被害地でも普通苗に比べて特に高い生存率を示していることが報告されています。

### ◆現在までの取り組み

東北地方では平成4年から事業が始まっていますが、現在までに確定された抵抗性マツはありません。抵抗性マツの確定には、各機関で行う一次検定と国で行う二次検定をクリアしなければならず、苗木の養成期間を含めて、もう少し時間がかかる見通しです。特に海岸で被害が進行しているクロマツは緊急性が高く、本県でも選抜に力を入れています。アカマツに比べ



マツノザイセンチュウの接種

明らかに抵抗性が低く、一次検定の合格木が1本しか見つかっていないのが現状です。

### ◆早期の苗木供給に向けて

以上のように抵抗性マツの確定にはまだ時間がかかります。しかし、現場では少しでも強い苗木を早急に必要としており、それに応じた対策が求められています。その一つとして、抵抗性マツでなくても、接種検定で生き残った苗木を集植し、そこから採種して暫定的に苗木を作っていく方法があります。抵抗性を持った苗木が出現する率は下がると予想されますが、大量ではなくても数年以内に供給できると考えられます。ただし、すべての苗木に接種を行う関係上、苗木1本当たりのコストが高くなるため、実用的な生産方法を確立していくことが今後の課題となっています。





第53回全国植樹祭記念誌

# 第五十三回全国植樹祭記念誌 『森のくにやまがた』発刊される

このほど、第五十三回全国植樹祭記念誌『森のくにやまがた』が発刊されました。発行は山形市の「みちのく書房」で、企画・編集には全国植樹祭実行委員会が全面的に協力しました。合計で二万部を作成し、一万二千部を六月二日の植樹祭当日、招待者、協力員をはじめ参加者全員に配布し、残る八千部は市販することになっています。編集にあたっては、「人と森の密接な関わり」に焦点をあて、

森づくりの大切さを伝える「森の総合情報誌」をめざしました。県内の珍しい巨木や滝、名水、森林の生き物などを紹介したほか、きのこ、山菜、金山杉、伝統工芸など、山形県の特徴ある「森の恵み」を集めました。巻頭には、アマゾン研究家の山口吉彦氏と世界的な冒険家大場満郎氏の特別対談を収録し、また、山形ゆかりの文化人からも寄稿していただきました。この機会に、山形県の森林文化の奥深さを再認識し、森づくりの行動の輪を大きく広げていただくことを願っております。

〔全国植樹祭推進事務局〕

## 森のガイドブック 「森の旅人・山形」のご案内

この本は、これから森を体験しようとする人達に、本県の美しい森を15箇所紹介する《森のガイドブック》です。

国土緑化推進機構が全国植樹祭開催県の森林を対象に作ることにしたもので、本県は2番目になります。

この本の特徴は、次の点にあります。

1. 森の劇場 遊学の森を含む四つの県民の森と、まだあまり知られていない森林を取り上げています。
2. 森の駅 森の道や周辺の情報を手に入れることのできる場所で、森の案内人が常駐しているところもあります。
3. 森の評価 利用者別（家族、団体、カップル、マニア）と月別、さらに人間の「知性・感性・行動」といった人間性を基準にした評価方法を取

※A6版 80頁

「森の旅人」  
二つの評価方法について

利用者のタイプ別評価

1. 家族向け 100%
2. 団体向け 80%
3. カップル向け 60%
4. マニア向け 40%

評価基準の考え方

この本は、利用された地域に植樹祭開催の功績をたたえ、関係機関やボランティアが活躍している場所を、本誌掲載の森として紹介させていただきます。

り入れ、新しい視点で利用することが可能です。この本の問い合わせ先は、山形県みどり推進機構です。

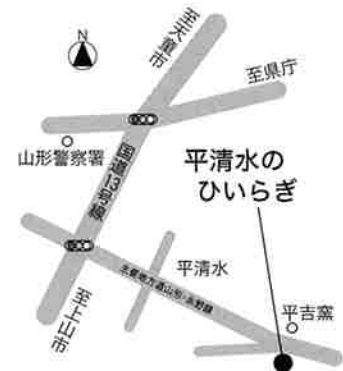
☎023-688-6633



平清水久左門氏の庭内にあり、ひいらぎは暖かい地方の常緑の小高木で、昔から庭木として広く植えられています。福島県いわき市が自生の北限とされています。平清水家は、慶長・元和の頃（西暦一六一〇年代）にして四千石を賜り、徳川時代には大庄屋をつとめた家柄です。根周三・五m、高さ約十一m、根元で二股に分かれています。樹齢は千年を越えるものと推定されています。昭和二十八年二月十三日山形県指定天然記念物に指定されている。（山形県森林協会）



案内図



公共木造施設③

よつば保育園

白鷹町大字十王

延床面積：448㎡  
 完成年度：平成11年度  
 構造：木造平屋建  
 特徴：床は、ホルムアルデヒド対策を講じている  
 その他：過年度施行分を含み、延床面積775.48㎡  
 問い合わせ先  
 ：白鷹町健康福祉課児童係





お気軽にご用命ください

- ☆土壌汚染・地下水汚染調査及び修復業務
- ☆保安林解除・林地開発許可申請書作成業務
- ☆土砂災害防止のための治山 GIS、地すべり GIS 及び上下水道施設、都市計画などの都市 GIS 業務



土と水と緑の技術で社会に貢献する

**国土防災技術株式会社**  
山形支店

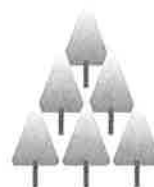
☎990-0023 山形市松波1-16-9(カネマルビル)  
TEL(023)622-3979・FAX(023)631-7294

建設コンサルタント / 建設業 / 地質調査業 / 測量業

## 緑のアドバイザー



### 財団法人 林野弘済会



- 秋田支部 山形出張所長 渡辺省三 〒990-0045 山形市桜町2-35 (林業会館4F)  
TEL・FAX 023(641)1024
- 秋田支部 支 部 長 石岡 保 〒010-0001 秋田市中通5-9-16  
TEL 018(832)4040 FAX 018(835)6837

森林に対する様々な要望にこたえる

地域に根ざした森林づくりを進めます



### 財団法人 山形県林業公社

990-0041 山形市緑町一丁目9番30号  
TEL 023-623-3505  
FAX 023-623-3530

うるおいあるふるさとづくり



## もり 森林の鼓動が聞こえますか…

森林を守り育てる「林業従事者」の育成と確保を目指して

### 財団法人 山形県林業従事者育成基金

(山形県林業労働力確保支援センター)

☎990-2334 山形市蔵王成沢字町浦535番地  
山形県森林組合連合会内  
電話(023)688-8220 FAX(023)688-8103



活かしてみましょ  
**夏のボーナス**は  
農林中金へ!

確定利回りの1年貯蓄

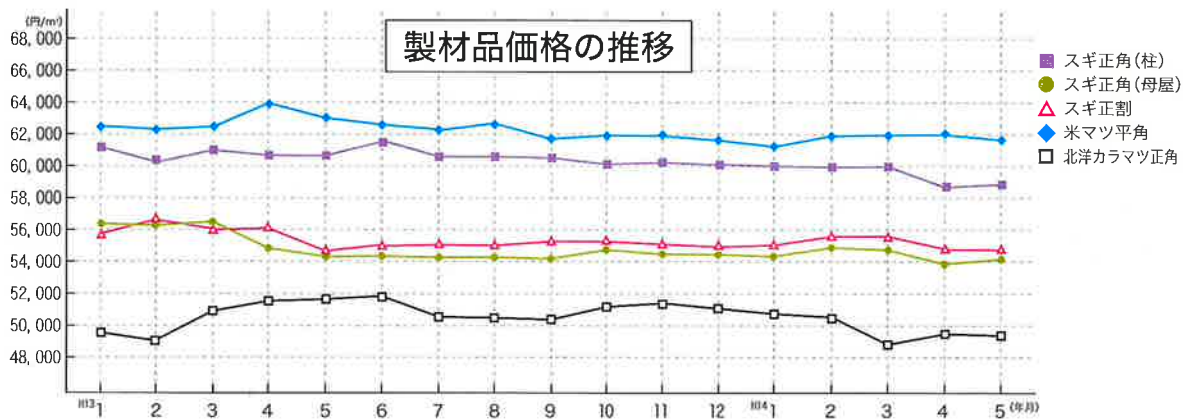
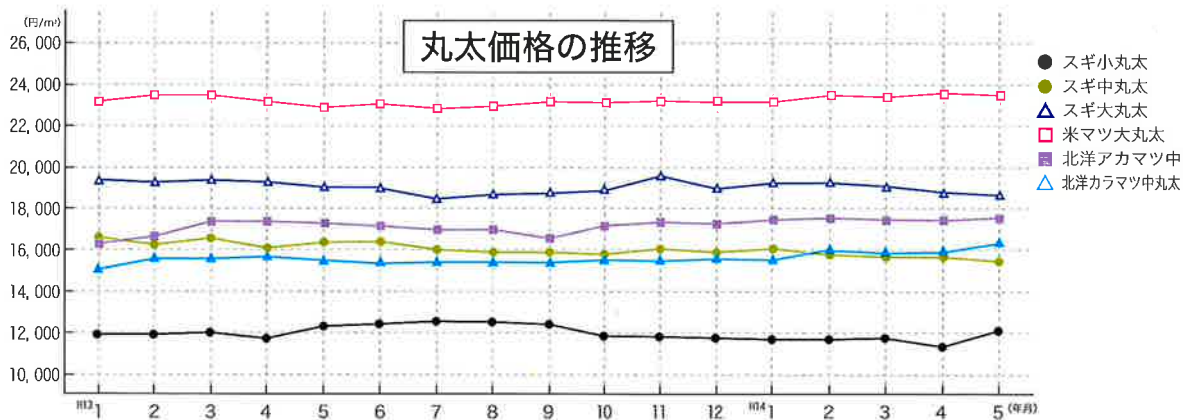
**ワリ**

**投資信託**



どなたでもお気軽に

**農林中央金庫山形事務所**  
〒990-0042 山形市七日町3-1-11  
☎(023) 641-6271



印刷所 渡辺活版所 定価 一部二〇円

森林やまがた 6月号 平成14年6月1日発行 通巻第63号

監 修 山 形 県  
編 集 ・ 発 行 山 形 県 森 林 協 会  
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内  
TEL 023-631-6566 023-622-8823  
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>  
第53回全国植樹祭ホームページ <http://www.shokujusai-yamagata.jp>

古紙配合率100%再生紙を使用しています